

新編
女五經
第四

92
4



92
4

魯 周 魯

女又経身四月録

身一 わうひめ物うのの

身二 并 わうひめ物うのの

魯 周 魯

同 周 庄 公 乃 辰 の

陳 北 國 乃 辰 の

楚 乃 辰 乃 辰 の

蒙 有 の 辰 乃 辰 の

河 間 乃 辰 の

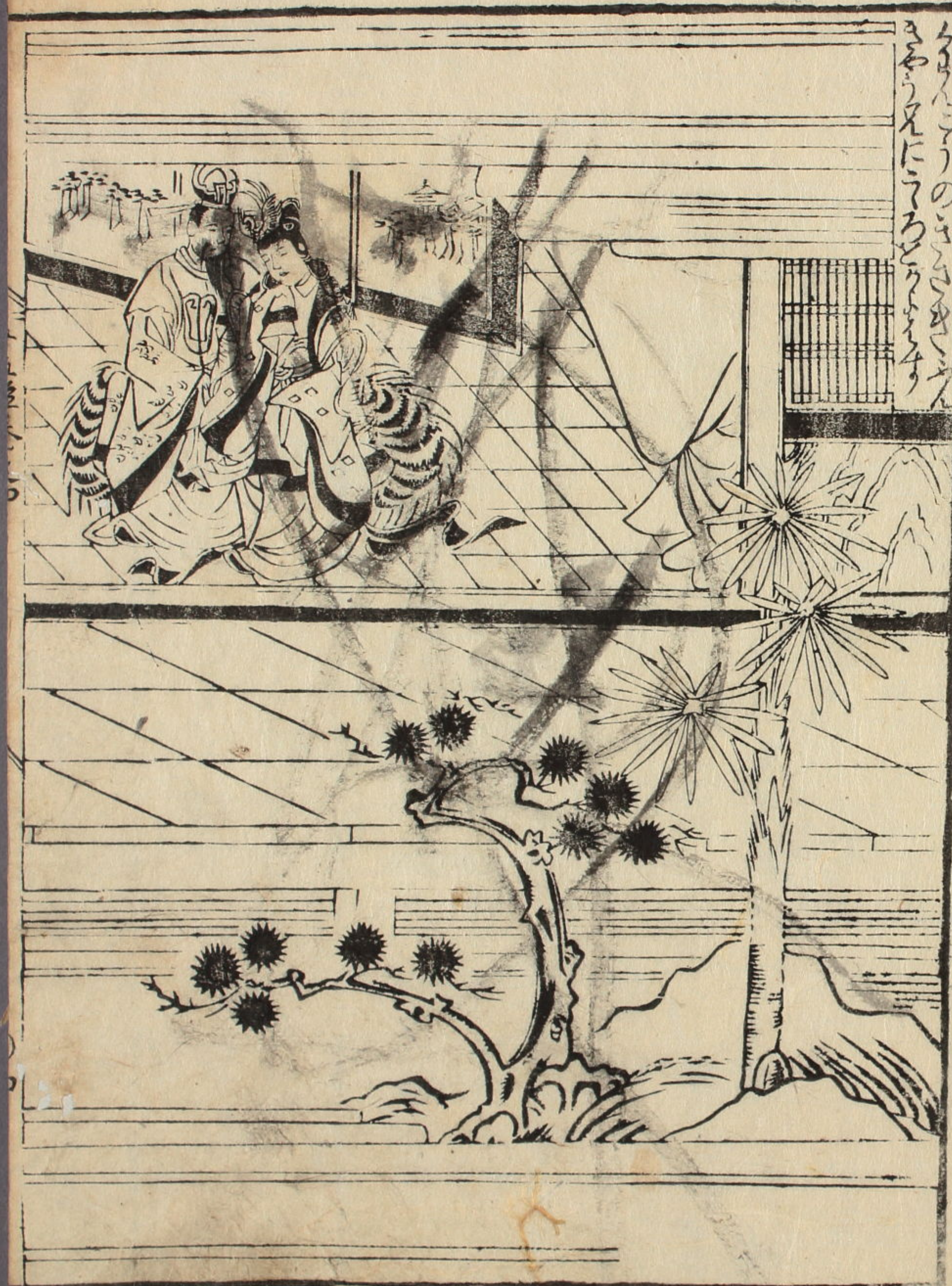
あしはひめけうえんたえ物辰の

魯 周 魯

女五經第四

詩經下

ほうほうたちあうれまへのほものぐこのとまう
 さそくくまうぐくせんしたまひうくたそとまう
 きたまひてううへのものぐりまうそくねり
 うくんんをとひたつやうれせんくゆあうくば女
 うめりそりうそのちのりうがちうくそいさく
 うくひあうれまへてううそく大戴禮也戸
 物に婦人有三徳道有家後父適人は使ま死
 後子このよくのせんはまにありまうくそちり
 志こぐへくまめり志てふれつととらりのよくす
 引りあつとまあを子にまうぶをりつてあ
 たとするなりまうおんあちらふものいさ



くはんごうのまごめくせん
きりうえにうろとろとろとろ



くはんごうのまごめくせん
きりうえにうろとろとろとろ

文養とらふなるいづその見とらふを道一丈の植公を
 養ひてのこころありと植公のたまたまあらずあつた
 そのつまずき藤の園へゆるとのいせよ長あつた
 こねよとらふむとられとも植公もさつたまのたつて書
 の文養をたれ藤の園へゆるとなまふにならうとち
 そうたふひなう植公の目を志のび文養は見とら
 を通してあそぶらんこうたふたうりてきまむせ
 どのさつすしとこころをたけいすものさつたうたふ
 甲のむのいせよ見にめいこのまひまをいせ
 て植公をこらすなうたれそろうさめめめをいせ
 たそれのちのよめりてあさけのよななりしあつた
 ゆよ詩経は孔非降自天牛自婦人ともいせ
 しとこころのちのぞらんあり

○外女傳のいづく魯の國の植公とらふ人縁の園に
 庭養とらふ人のいせたりくあひひうひあつた
 やとあつたそのち植公魯の園へめつていせ
 なくさつたまふ長あつためていせ
 せめつたたまふとのふなひとらふひたまふと
 女父母のゆるとらふけすしてたつたあつたのは
 らひまこ君礼なくとらふとらふひむふのよあつた
 かんそらんさつたきんせとらふたつたまふは
 よひむえけつたうたつたあつたさつたさつた
 幼のちのたつかつた丸よとらふたつたひとらふひ
 庭をたつたすつたひたしつたつた二叔とらふとの又つた
 とらふのけのたつたつたのちつたつたつたつた
 つたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

ちその子たつて世談たりまばねおとけのやと流し
 ぬせてもめこそ一女のまんなをなして國城おさ
 むくのちあけのやとねおらうらめくうちとけた
 がひれいんれはほつしとまかまてそのあめり
 への女うらうらうらあたらつて位をたをうたを
 ころそのやうをなして位をささせたくあやといけ
 いやのうらうらんとていりいよとめくつてこ
 うけのや王にめらひのさるあえうたうらとんを
 せすけの海をうえすけのやとまのの國にまけ
 たりしよとていりいよとねあめ二人もいれ
 らまいてるいりあめいり國の私にたれねあ
 よらあめいりいよとめうのたかひあり
 ○とろこ一際といふ國にまねといふねおわり

その子の淑婦とらめて陳の國のうらうあつたのうま
 といふあうらうくたのいりあめいりようて矢おハドに
 およぶす國大急そのあうらめくのめまてありひ
 をうけたりとるつていりいよとめあつていり
 ちまうなまこれつまたなれり陳の國の王其公とま
 まいそのころ公孫寧とらあめのと後け父といふその
 わりい二人もな娘にらまうら一年ひといり
 ふまて其公とくさといりいりあめいりあめいり
 ぐ子淑婦をめいり公孫寧まといり後け父といふ
 ころ海をのまていりあめ二人のそのよたし
 てのいりあめ淑婦いりちらぐ子とていりあめいり
 甲といためいり二人とていりあめいりあめいり
 たぐひにあつていりいりいりいりいりいりいりいり

楚の國に酒をすめつものさうらにまらうけいて君と
とさうすさう酒より二人のさめりよその國へよけさ
ぬましまいさう此子年とよこれのたの國へよけさ
中さうも微舒天下をねさむその年楚の國の莊
王君公の子をすひたすけしてささねさるしあ
微舒をうちさう一ぬさそまひさうの子年をたさ
成公とちあげ天下をささねさるそのち莊王を姫う美
をさそ妻にせんといふ申公といふそののりさくこれあ
な姫てさげにささまらさるれりうよあけるありとそ
いさんとす莊王とさまらなまそののち此子年とよ
そのさねをさほまのせんといふ申公りりさくこれお家
たわくまんあのみさう涉叙とさう一君公とさう一妻
おとさるし一孔俊とさう一海の書をわらわせり

えれたあくらんかろ天下にうりささ女たのさし
あつたとさしさいめけさるこれとさまらぬさそその
のち莊王と尹といふ實にあつさうのささまら
まのついにあぬまらさう子とまらさる姫とさうり
らうさうさうさう一けあそののち申公ひそくさる姫を
さうひさうをさつしえ書とさう國にまけさうさ
なわりの子と大さいにいり人をささるし一申公とさ
さる姫とさうさひさのささあさなわりとならり
かとのたわくまんの女をひすか
○楚の國に考烈王と尸にあつさなまら子な
さそしたるのちあささささるあ大さんらわら中も
さ申君とささあ老とささらわらさささ申君と
うけあり子年とささあらあさささささささ

なるもの一が敷て一月なり
 掣^ひ居^り申^す君^にむ
 うひし^くく^くま^れす^てい^まし^めり
 考^考烈^烈王^王は^は子^子を
 ま^まし^まし^たむ^しな^まし^たま^した
 し^しの^のこ^ころ^ろに^にあ^ある^る
 考^考烈^烈王^王は^はこ^この^のこ^ころ^ろ
 子^子考^考烈^烈王^王は^はこ^この^のこ^ころ^ろ
 ら^らも^も考^考烈^烈王^王は^はこ^この^のこ^ころ^ろ
 た^たま^まし^たま^まし^たま^まし^た
 ひ^ひと^とは^は考^考烈^烈王^王は^はこ^この^のこ^ころ^ろ
 ろ^ろと^とひ^ひや^やと^と考^考烈^烈王^王は^はこ^この^のこ^ころ^ろ
 ん^んの^のこ^ころ^ろに^にあ^ある^る
 お^おの^のこ^ころ^ろに^にあ^ある^る
 て^てい^いせん^んな^なし^し



女五経卷之四

女五経卷之四

ていふはまよひそのやうにうらやましくすうの
 若もさうずれ言をわづらひあまゆふはあまひい
 といふにやめりしはいつたもあつていふにうらやましく
 たりれ言をうらやましくせなまんとあつたせうりぬ河間
 といふてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 まんとさうに何とぞ推しのさうさうさうさうさうさう
 女をよきなるにひさしれれ言をわづらひまんとあつ
 一ともし河間さうさうさうさうさうさうさうさうさう
 以静言をれとて楚のいさささひをたのむに衣
 竿さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 心を溺るのにあらざとらふ娘せひとすむねを
 ちうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

わそひて市をさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 すうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 いさささうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ひまの世言をさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 まげりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 てのれさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 りさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 なりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ともさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 うのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 たり一服のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

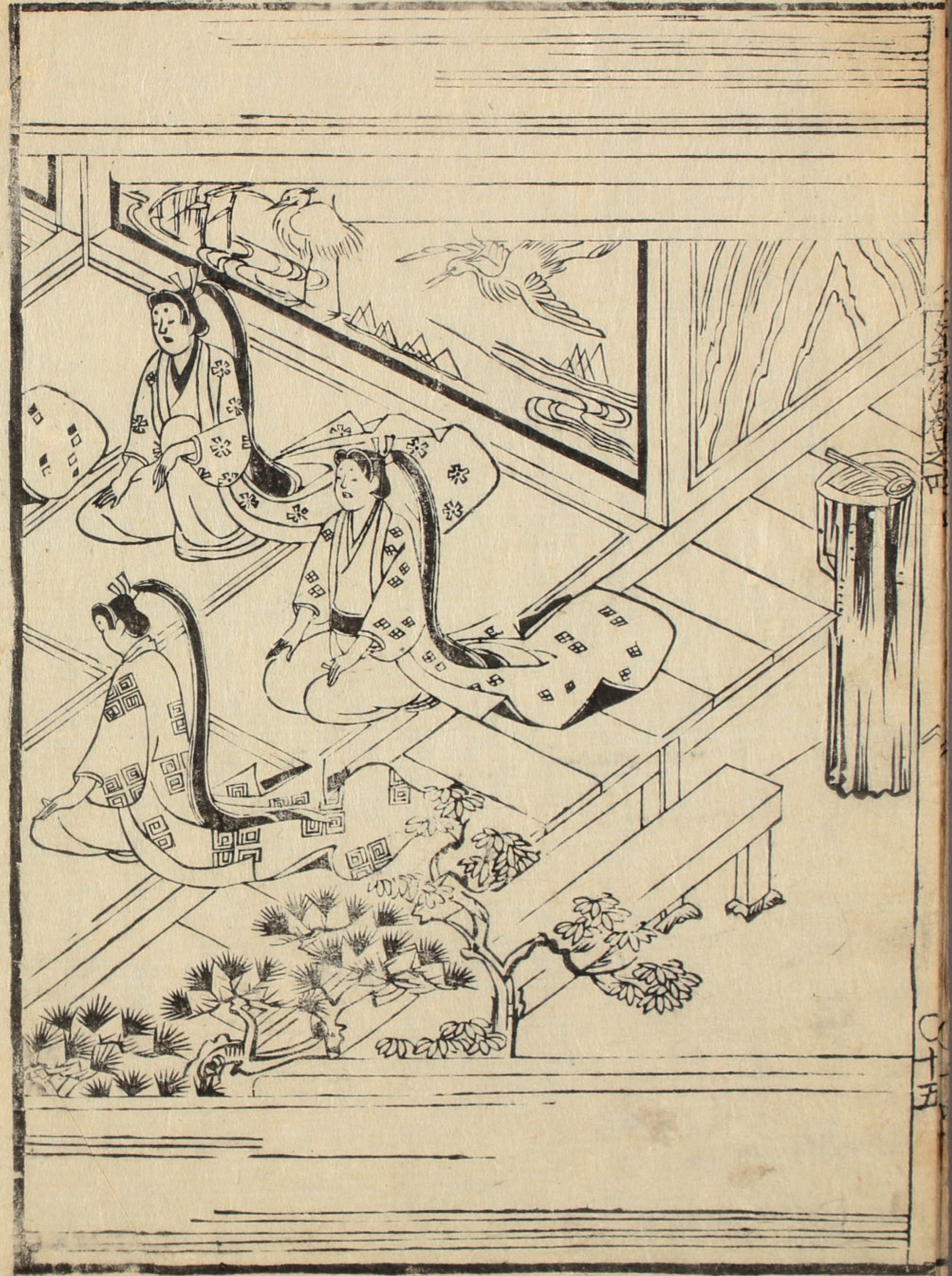
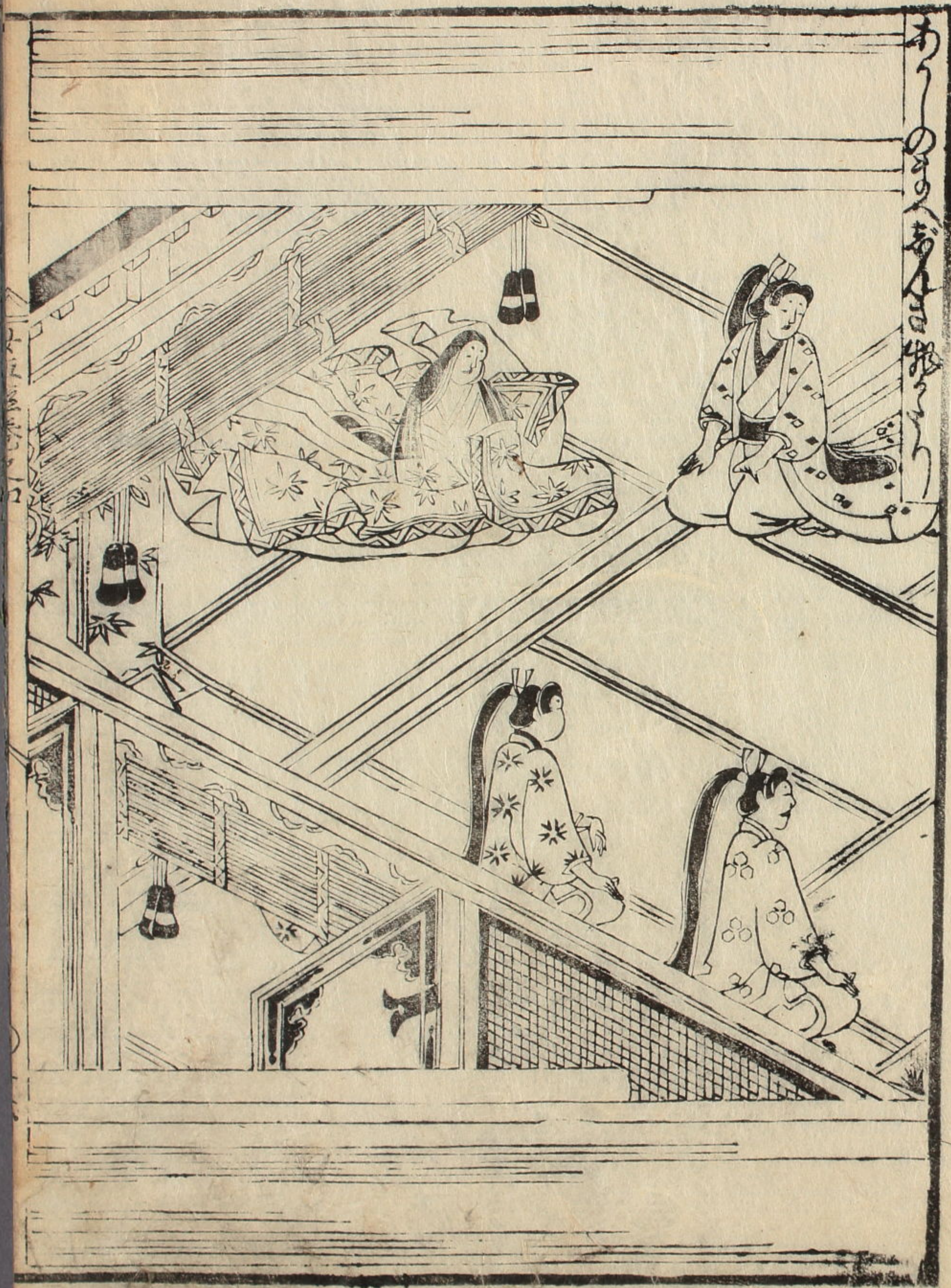


かたじけなくあはれしむるうらぐら

そのとてつねにぬあつとさしめはれの女はさうは
 どのひびきあつたふたつおはあつて何間をどうくは
 てのちたふたつたふたつとふたつとふたつとふたつと
 らうとふたつとふたつとふたつとふたつとふたつと
 ばあつとふたつとふたつとふたつとふたつとふたつと
 うとふたつとふたつとふたつとふたつとふたつと
 一るなるともうにりりつたつとふたつとふたつと
 一とたひつたつたつとふたつとふたつとふたつと
 戸をさつたつとふたつとふたつとふたつとふたつと
 うくもものつとふたつとふたつとふたつとふたつと
 さつとつたつとふたつとふたつとふたつとふたつと
 れとも身のえだにふたつとふたつとふたつとふたつと
 あつとふたつとふたつとふたつとふたつとふたつと

神あやと志あしとばなとちとさうのしめんあ
 れどもさうらうもすけとらひてくさくさうも
 とくものちとらひにさういふとさくさうなち
 よつとさうのちとさういふとさういふけあ
 れとさういふとさういふとさういふとさう
 をたて二人のたさういふとさういふとさう
 にはうたなれとせんさういふとさういふと
 甲けのちとさういふとさういふとさういふ
 娘とさういふとさういふとさういふとさう
 この人もちとさういふとさういふとさうい
 さういふとさういふとさういふとさういふ
 なうばとさういふとさういふとさういふと
 らすそのちとさういふとさういふとさうい

にまうとさういふとさういふとさういふと
 せとさういふとさういふとさういふとさう
 うとさういふとさういふとさういふとさう
 ほうれとさういふとさういふとさういふと
 食とさういふとさういふとさういふとさう
 れとさういふとさういふとさういふとさう
 わりて河間とさういふとさういふとさうい
 天子にやわけあるとさういふとさういふと
 ぐねとさういふとさういふとさういふとさ
 ぶつとさういふとさういふとさういふとさ
 ひけとさういふとさういふとさういふとさ
 れとさういふとさういふとさういふとさう
 うとさういふとさういふとさういふとさう



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is contained within a rectangular border and consists of approximately 15 lines of writing. The characters are highly stylized and interconnected, characteristic of shorthand systems used in the 18th or 19th centuries. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text, possibly a signature or a specific heading, located at the bottom of the page. It appears to be written in a similar cursive style to the main body of text.

